

2012 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —文学研究科—

文学研究科長 石 鍋 真 澄

基本的には昨年とまったく同じ傾向が見える。「総合的にこの授業を評価できる」の設問項目の平均値が 4.84 であり、昨年とほぼ同じで、かつ高い水準を保っているのは喜ばしい。特に評価の高い項目は、「教員は授業時間を有効に利用した」「授業への教員の熱意を感じた」といった項目で、教員が授業運営に努力している様子を窺わせるものであると思う。他方評価の低い方を見ると、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」「予習または復習をよくした」の項目で、これも昨年と変わらない傾向であった。昨年は、「難し過ぎたのか、易し過ぎたのか、この結果だけからはどちらとも判断できない。」とコメントしたが、この二項目を併せて考えると、学生の自習努力が不足ぎみであるということが最も根本的な問題なのではないかと考えられる。

この点から、教員は自己の授業の充実に努めるのにとどまらず、学生の自習学習を喚起する工夫や努力をして行くことが必要であろう。